

令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【2年目】

報告日 令和7年11月25日

P T A名		静岡県立沼津視覚特別支援学校 P T A				
学校	対 象	<input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input checked="" type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数					

1. 使用状況

寄贈物品名	拡大読書器
使用学年及び人数	小学部2年 1名 小学部5年 1名
使用頻度	毎日
使用状況	<p>本校では、弱視の小学生児童が日常の学習において拡大読書器を活用している。授業では、児童の視覚特性に配慮し、主にデジタル教科書や拡大プリントなどを用いて学習を進めている。しかし、社会科見学の資料や学校から配布されるお便り、地域行事のパンフレット、絵本など、紙媒体で提供される資料を使用する場面も少なくない。そのような場合、拡大読書器を用いて細かい文字や図表、挿絵などを確認している。特に図表やグラフ、地図などは、拡大しても鮮明に読み取れることから、学習内容の理解を助ける大切な手段となっている。授業では週2、3回程度使用しており、児童自身も必要に応じて積極的に操作している。現在では、拡大読書器は児童にとって欠かせない学習補助具の一つとして定着している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>拡大読書器の導入により、紙媒体の教材や資料に対しても児童が自力で内容を確認できるようになったことは大きな成果である。以前は、細かな文字や図を読む際に教員の口頭説明を必要とする場面も多かったが、現在では児童自身が機器を操作し、必要な箇所を拡大しながら確認できている。その結果、学習内容を自分のペースで理解しようとする姿勢が育ち、学習への主体性が高まっている。また、視覚的な負担が軽減され、姿勢を崩さずに集中して作業に取り組めるようになった。学習に対する自信が生まれ、授業中の発言や課題への取り組みもより積極的になっている。数値としての効果を明確に示すことは難しいが、日々の落ち着いた学習態度や意欲的な姿から、拡大読書器が学習の質の向上に寄与していると感じている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>現在のところ、拡大読書器の使用や管理に大きな課題はなく、児童は操作にも十分慣れており、必要な場面で落ち着いて活用できている。今後は、学年の進行に伴って学習内容が高度化し、細かな図や複雑な資料を扱う機会が増える事が予想される。そのため、拡大読書器の機能をより効果的に生かし、学習内容や場面に応じて柔軟に活用する工夫が求められる。また、タブレット端末など他のICT機器との併用を進めることで、学習支援の幅を広げることも今後の課題である。併せて、機器の保守や管理を継続的に行い、安定して使用できる環境を維持していくことが重要である。今後も児童の実態に応じて活用を工夫し、学びを支える有効な手段として継続していきたい。</p>
その他希望や所感など	<p>拡大読書器の活用により、児童が自らの力で教材を読み取る機会が増え、学習への意欲が一層高まっている。細かな文字や図を自分の目で確認できることが自信につながり、授業への参加姿勢にも良い変化が見られる。教員としても、児童が主体的に学ぶ姿を支援できることに喜びを感じている。今後もこの機器を大切に活用し、学習環境をさらに整えながら、児童の学びをより豊かにしていきたい。</p>

2. 活用の様子



- ↑ 植物を観察している様子
- ↓ 図鑑のイラストを拡大している様子

